

# いわき農林水産ニュース

令和元年8月号(第174号) 発行 8月29日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



豊かに実った旬の梨  
「豊水」を是非どうぞ!

## 目次

・【特集】JA福島さくら「トップセールス」……p.1

〔各種取組の実績(7~8月分)〕……p.3~

## 〔お知らせ・連載記事〕

・いわき地方の出荷制限等品目……p.7

・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……p.7

・第2回高校生レシピコンテスト受賞レシピ紹介……p.8

・GAPコーナー……p.9

・6次化商品紹介……p.10

## 【特集】

## いわき産青果物をPR!

### 東京都内でJA福島さくら青果物販売対策「トップセールス」を開催

JA福島さくらでは、7月18日~19日に東京都内のホテル、関係3卸売市場において、青果物の販売強化を図るため、JA福島さくら青果物販売対策「トップセールス」を開催しました。

トップセールスには、JA福島さくら役員、生産部会代表、JA福島さくら管内の5市町長、農林事務所長、農業普及所長が出席し、招待された取引卸市場15社との意見交換、情報交換、そして産地からの要望を申し入れました。

取引卸市場からは、今後夏秋野菜や果実の本格的な入荷にあたり、販売を更に強化し産地の要望に応えられる単価確保に努力する旨の発言がありました。

また、19日早朝には、いわきの主力取引卸会社である東京新宿ベジフル(株)の売り場において、いわき産トマト、なめこの他、双葉産タマネギ、田村産インゲン等を陳列し、いわき市の渡辺副市長を始め、関係機関・団体のトップが仲買人へ売り込みを行いました。

産地からの要望と、卸売市場からの要望、産地として今後進めるべき対応は次ページに記載したとおりですが、今回のトップセールスを通して、産地と卸売市場間でお互いの要望を確認するとともに、今後の生産振興や販売対策に連携して対応することを申し合わせました。



(本県産の野菜の試食の様子)



(販売対策会議の様子)



(仲買人を前に挨拶するJA福島さくら大和田専務)

## 1 産地からの要望と卸売市場からの要望

### (1) 産地から卸売市場へ

当所管内からは、いわき市渡辺副市長を始め、根本いわき地区本部長理事、いわき地区ネギ部会鈴木副部長が、それぞれの立場で卸売市場へいわき産野菜、果実の魅力をPRしました。

また、生産者がGAPを取得して生産工程管理をしっかりと行うことで、安全安心な農産物生産や高品質生産につながっていることを卸売市場に対して紹介しました。

さらに、JAからは市場関係者に産地の要望価格を提示し、生産者が納得する価格（トマト、ねぎ 350 円/kg、日本なし 300 円/kg 等）での市場取引になるよう強く要望しました。

### (2) 卸売市場から産地へ

福島県は、夏秋野菜、秋冬野菜の主力産地として売り込んでいるので、もっと入荷量を増やしてほしいとの強い要望がありました。特に、栽培に手間のかかるインゲンは、生産者の高齢化に伴って著しく生産量が減少し、需要に応えられなくなっているため、産地の生産拡大による入荷量増加の要望がありました。

また、GAP農産物はオリパラに向けて動きが活発化しており、スーパーではGAPの売り込みが始まっているが、消費者へのPR不足があるとの意見がありました。

さらに、入荷量情報を市場へより早く繋ぐことが取引を有利にするので、早めの情報提供を望む声が多くありました。

## 2 関係機関・団体における今後の対応

JA福島さくらの販売計画では、野菜、果実で年間売上31億円を目標としており、この目標を達成するために生産指導、生産部会活動を強化することとしています。当所では、技術指導を始め、いわき市及びJA福島さくらいわき地区本部と連携し、担い手を対象としたセミナーの開催、生産基盤の拡大に向けた各種支援事業に取り組むこととしています。

(農業振興普及部)

**建設工事安全推進協議会通常総会及びいわき森林土木協会通常総会〔8月2日(金)〕**

福島県いわき農林事務所管内建設工事安全推進協議会通常総会が、いわき建設会館において開催されました。昨年度の事業報告、今年度の事業計画を審議した後、いわき労働基準監督署三瓶安全衛生課長を講師に、建設工事における労働災害防止の徹底についての安全講習会が行われました。



(総会の様子)

引き続き、いわき森林土木協会通常総会が開催され、優良森林土木工事及び優良工事監督者の表彰が行われました。受賞者は次のとおりです。

- ・ 治山施設(県営)2901工事「諏訪下地区」(株)みちのくNテックス、工事監督者 藤田信行氏
- ・ 治山施設(県営)3001工事「滝尻地区」(株)水中組、工事監督者 水野谷亮氏

(総務部・森林林業部)

**市内学童クラブで食育活動を実施**

**〔8月2日(金)〕**

「ふくしま食育実践サポーター」の三森美智子さんによる食育活動が、平第三小学校内のすずかけ学童クラブにおいて学童児童62名を対象に実施されました。



(おやつ作りを指導する三森さん)

初めに、1～2年生を対象に「おやつのとおり方」、3～5年生を対象に「スポーツと栄養」と題した講話が行われ、適切なおやつや選び方、スポーツに必要な栄養や試合で勝つための食事などについてお話をいただきました。児童たちは三森さんの問いかけに元気に答えながら、内容について楽しく理解を深めていました。

その後、おやつ作り体験を実施し、児童たちは思い思いにカップケーキのトッピングの飾り付けを楽しみ、手作りしたおやつを味わっていました。

県では、学校や地域団体等が実施する子ども等を対象とした食育活動を支援する「ふくしま食育実践サポーター」を派遣する事業を行っております。是非、ご活用ください。(企画部)

**土地改良施設の定期診断**

**〔8月6日(火)〕**

農業用水の供給や排水対策に不可欠な「堰」や「用・排水ポンプ」等の土地改良施設を長く使い続ける(長寿命化)ためには、日常のメンテナンスの他に数年～十数年に一度の大規模な補修が必要であり、この補修時期を予測する上では定期的な診断が必要です。これらの施設のうち大規模なものは、概ね5年に一度の割合で、県・水士里ネット福島(福島県土地改良事業団体連合会)・施設管理者が合同で定期診断を実施しています。



(用水ポンプの診断状況)

今年管内では、愛谷堰土地改良区が管理する大越藤間第一排水機の他2施設の診断を行い、現時点では大きな補修は必要無いと診断されました。引き続き10月には鮫川堰土地改良区が管理する施設の診断を行い、土地改良施設の長寿命化を推進していきます。(農村整備部)

## 先端水産業技術体験フェア

〔8月4日(日)〕

相馬市の相馬原釜地方卸売市場において、「先端水産業技術体験フェア」が開催されました(主催/公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構、福島県)。

本フェアは、漁業の担い手不足等が深刻化する中、営漁再開等を促進するため、海中ドローンやパワーアシストスーツなどのロボット技術、水質リモート監視装置などの環境制御技術等を紹介し、実際に体験できるというものです。

いわき市の漁業関係者も多数訪れ、関心も高かったようです。出展各社の展示では、シャーベットアイスや3Dフードプリンターといった、視覚や触覚に訴えるブースに人気が集まっていました。なお、当センターも「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の取組について、パネルによる紹介を行いました。

(水産海洋研究センター)



(3Dフードプリンターのデモ)



(水産海洋研究センターのブース)

## フレッシュ農業講座を開催!

〔8月7日(水)〕

福島県立磐城農業高等学校の1年生(園芸科36名、食品流通科37名)を対象に、「フレッシュ農業講座」を開催しました。

本講座は、農業者との交流により、地域農業に対する理解を深めること、農業に対する興味や関心を高め、就農意欲の向上を図ることを目的として開催しています。

今回はいわき市のピコブルーベリー農園(p.9 地図参照)及びいわきワイナリー(p.9 地図参照)を視察し、就農の経緯についての講話、醸造施設見学や収穫体験等を行いました。猛暑の中ではありましたが、生徒たちは各視察先での講話を熱心に聴いている様子で、「学校とは違う経験ができ参考になった」、「収穫が楽しかった」、「農業を営んでいる祖父母の手伝いをしようと思った」等、農業に対して興味を深めていた様子でした。

(農業振興普及部)



(農業者からの講話を聞く生徒)

## 「みずほの森づくりプロジェクト」ボランティア活動

〔7月27日(土)〕

「みずほの森づくりプロジェクト」ボランティア活動が開催され、平成27年度までに植栽したクロマツ苗木の生長を妨げる下草の刈り払い活動が行われました。

みずほの森プロジェクトは、福島県の震災復興のため、みずほフィナンシャルグループが、地元山林組合、市、県と協定を結び、津波で被災したいわき市新舞子海岸(p.9 地図参照)の海岸防災林を対象に植栽・下刈り等管理を行っているものです。

当日は、県内のほか首都圏や東北から約100名の同グループ社員及び地元山林組合、市、県の関係者が参加し、植栽木より大きく育ったつるや下草を手鎌を使いながら丁寧に刈り払いました。

(森林林業部)



(活動内容の説明を受ける参加者)



海と山 夏休み漁業体験交流会

〔7月21日(日)〕

石川町と久之浜の子どもたちに漁業の魅力を伝えるための漁業体験交流会が久之浜漁港(p.9 地図参照)で開催され、約60名が参加しました。参加者は、初めにいわき市漁業協同組合の専務理事から久之浜の漁業について説明を受けた後、4隻の漁船で乗船体験を行いました。帰港後には、さし網で漁獲された魚介類の網外しを見学しました。子どもたちは漁船の迫力や生きている魚やカニ



(乗船体験の様子)



(昼食の様子)

に大喜びで、夏休みの良い思い出になったのではないかと思います。

昼食は漁協久之浜支所女性部のほか地元のお母さん達によるおにぎり、メヒカリの唐揚げ、サンマのつみれ汁がふるまわれ、いわき産の魚の美味しさと安全性をPRしました。

こうした交流を通じて県産水産物への理解が深まり、消費拡大につながることを期待されます。

(水産事務所)

農林水産部長、技監が事業者などを訪問

〔7月17日(水)、31日(水)〕

県農林水産部の松崎浩司部長が7月17日(水)、水産海洋研究センター完成記念式典の後、小名浜魚市場で試験操業や検査体制の状況を視察するとともに、県の調査指導船「いわき丸」及び調査船「あづま」を視察しました。その後、農事組合法人いわき菌床椎茸組合(p.9 地図参照)と遠野興産株式会社岩石工場(p.9 地図参照)を訪問しました。いわき菌床椎茸組合ではしいたけ栽培の状況や海外からの技能実習生の受入で工夫している点などについて、遠野興産岩石工場では木質ペレットの製造状況や燃料用チップの放射線管理の取組などについて説明をいただきました。

また、7月31日(水)には、佐藤新太郎技監が水産海洋研究センターの新庁舎と小名浜魚市場を視察し、引き続き株式会社ワンダーファームと認定 NPO 法人みどりの杜福祉会就労支援センター未来ファームいわきワイナリーを訪問しました。ワンダーファームでは温室内のトマトの生産状況や直売所を視察、いわきワイナリーでは20名ほどの方が障がいの程度に応じて仕事を担当していることなどの説明を受けた後、農場と醸造所を視察し、ぶどうの生育状況やワインの醸造工程などの説明をいただきました。

(企画部・水産事務所)



調査船「あづま」甲板  
(松崎部長)



農事組合法人いわき菌床椎茸組合  
(松崎部長)



ワンダーファーム「森のマルシェ」  
(佐藤技監)



いわきワイナリー好間田代農園  
(佐藤技監)

## JA福島さくらいわきいちご部会設立50周年記念式典 [7月31日(火)]

JA福島さくらいわきいちご部会は、昭和44年、夏井地区の生産者が中心になって発足し、以来半世紀の歴史を歩んできました。50周年を迎えた今年、これを記念して式典及び祝賀会が開催されました。また、いちご部会は平成30年度のいわき市農林業賞を受賞したことから、この機会に改めて受賞披露も行われました。

会場の新舞子ハイツには、生産者、JA、関係機関など50名が集まりました。



(式典での部会長あいさつ)

来賓として招かれた元部会長や市場の関係者から、発足当初やピーク時200名を越えた部会の様子、栽培上の苦勞などについての話が紹介されました。特に、川前まで苗を運ぶ山上げ作業を行ったこと、品種もダナーや宝交早生などを経て現在のとちおとめ・

ふくはる香に変わったこと、施設も露地からトンネルへ、パイプハウスへと変わってきたことなど、若い生産者やJAの担当者にとっては興味深い内容であった様子でした。



(記念誌と記念品)

式典では、これまでの産地発展をともに支えて頂いた取引市場である株式会社平果に対し、部会長から感謝状が手渡されました。

高設栽培の普及や FGAP 認証、県オリジナル品種の活用推進など、さまざまなブランド化に取り組んでこられた部会ですが、今後もいわきのいちご生産の発展に向けて益々ご活躍いただければと考えております。(農業振興普及部)

### トピック

#### ほ場整備の進め方の参考に ～秋田県優良事例検討会(8月8～9日)より～

農業経営の安定化のため、長期間の農地の貸し借りを仲立ちするのが「農地中間管理事業」です。一方、一般に小さい農地は借り手を見つけることが難しいと言われており、耕作放棄に繋がる心配があることから、「ほ場整備事業(農地整備事業)」により農地の区画を大きくして、担い手が借り易くすることも必要です。

秋田県は、農地中間管理事業と農地整備事業の連携が進む先進地で、8月8～9日に優良事例の検討会が行われました。秋田市の雄和(ゆうわ)地区は、ほ場整備を契機に地域で度重なる話し合いや検討を行い、農事組合法人を設立し、地区の8割以上の面積をその法人が経営するとともに、ネギ、ダリア等の園芸品目を新たに導入することで収益を向上させていました。法人への農地利用集積に農地中間管理事業を活用し、その結果得られた地域集積協力金を法人の経営資金に充てて、経営を安定させていました。



大規模な園芸団地“園芸メガ団地”(秋田市雄和地区)

このように、「誰が」「何を」「どのように」営農していくかを地域で十分に話し合うことが重要です。皆さんの地域においても、ほ場整備を希望される場合は、今回の事例も参考に話し合いを進めていただきたいと思います。(農村整備部)



## お知らせ

### いわき地方の出荷制限等品目（令和元年7月分）

#### □ 農林畜産物の出荷制限等品目

令和元年7月末日現在、いわき地方の農林畜産物のうち、出荷が制限等されている品目は（表1）のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値（100Bq/kg）以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。（企画部）

（表1）農林畜産物の出荷制限等品目（令和元年7月末日現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、 わらび（野生のものに限る）*、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）

\*わらび（栽培）は該当生産者8名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

#### □ 海産魚介類の出荷制限等品目

令和元年8月28日現在、出荷制限等指示魚種は（表2）の2種類になっています。（水産事務所）

（表2）海産魚介類の出荷制限等品目（令和元年8月28日現在）

制限、自粛	品 目
出荷制限	ビノスガイ、コモンカスバ

\*サクラマス、ムラソイ、カサゴは8月28日に出荷制限が解除されました。

### いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（令和元年7月分）

#### □ 農林畜産物の検査結果

令和元年7月の農林畜産物モニタリング検査では、検査した13品目25検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。内訳は（表）のとおりです。（企画部）

（表）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

カボチャ 1、菌床しいたけ（施設）8、タマネギ 1、ニンニク 1、小麦 1、六条大麦 1、  
ツルムラサキ 1、ナス 1、ハウレンソウ（施設）1、ブルーベリー 1、ピーマン 1、牛肉 2、  
原乳 5

#### □ 海産魚介類の検査結果

令和元年7月の水産物モニタリング検査では、423 検体の魚介類を検査し、放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。

また、検査した全ての検体で放射性セシウム検出限界値未満（不検出）でした。（水産事務所）

高校生が考えた  
オリジナルレシピを  
作ってみよう!

## 第2回高校生レシピコンテスト 受賞レシピ紹介

Vol.2

### 地元愛たっぷり♡ イタリアンぎょうざ

緑川 優水さん、林 あいりさん

福島県立湯本高等学校 1年

調理時間：60分

食材費(4人分)：1,500円



#### 材料・分量(4人分)

いわきゴールドしいたけ  
..... 3個  
サンシャインミニトマト  
..... 12個  
いわきねぎ ..... 3本  
県内産ほうれんそう .. 50g  
麓山高原豚ひき肉 .. 270g  
ぎょうざの皮(大判) .. 20枚  
細切りミックスチーズ .. 50g  
トマトスープゼラチン  
市販のトマトスープ 300cc  
+バジル(みじん切り)  
+ゼラチン 5g  
イワキライキ(米粉) ... 10g  
トマト塩 ... 小さじ1/2

#### 作り方・手順

- ①豚ひき肉にトマト塩を入れ、粘りがでるまで練る
- ②ねぎ、しいたけ、ミニトマト、ほうれんそう(茹でるとさらにおいしい)をみじん切りにする
- ③①に②を入れ、練る
- ④③にトマトスープゼラチン、米粉の順に加える
- ⑤ぎょうざの皮で④とチーズ(ひとつまみ)を包む
- ⑥熱したフライパンで焼く
- ⑦トマト塩をふりかけ、いただく

#### COMMENTS

福島の愛情がいっぱい詰まった食材を使って作りました。サンシャインミニトマトとバジル、チーズを入れて、イタリアンなぎょうざです。麓山高原豚ひき肉のジューシーさがあり、かつ野菜たっぷりです。少し風変わりですが、だれでもおいしく食べられます。



# GAP コーナー

## GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

### 認証GAPを取得しませんか？

GAPとは Good (良い) Agricultural (農業の) Practice (やり方) の略称で、食品安全・環境保全・労働安全等の観点で、生産者が農業生産において守るべき法令や基準を遵守するための取組を計画・実践し、実践した内容を記録・検証しながら、より安全な農作業、安心できる農産物の生産、効率的な経営などを旨とする取組のことです。

また、GAP の取組を認証機関が審査し、「信頼性の高い生産管理体制のある農場」として認めるものが「認証GAP」であり、GLOBALG.A.P.、ASIAGAP、JGAP、ふくしま県 GAP (FGAP) 等があります。

認証GAPを取得することで、あなたが生産している農林産物が安全であることを消費者・流通関係者に保証することができます！また、東京オリンピック・パラリンピックへの食材調達基準として認証GAPが必要になります！

情報化社会の中で、一般消費者が農産物に求める「安全度」「安心感」は、今後ますます高まり、認証GAP取得農産物の引き合いは高まっていくことが予想されます。農業者の皆さま、将来を見据え、認証GAPの取得をしませんか？興味のある、又は詳しく知りたい方は、お気軽に農業振興普及部までご連絡ください。

(農業振興普及部)

< 認証GAP取得イメージ >



### 今月号に掲載した場所はここです！

- ① ピコブルーベリー農園 (p.4)  
大久町小久成沢 61-186
- ② いわきワイナリー (p.4)  
好間町上好間字田代 11-8 及び 66-1
- ③ 新舞子海岸 (p.4)  
平沼ノ内~四倉
- ④ 久ノ浜漁港 (p.5)  
久之浜町久之浜館ノ山 9
- ⑤ 農事組合法人いわき菌床椎茸組合 (p.5)  
渡辺町泉田花立 67-1
- ⑥ 遠野興産株式会社岩石工場 (p.5)  
遠野町滝島廻 43
- ⑦ (有) ヨウ 小川きのご園 (p.10)  
小川町上平字中平 7



## こだわりと美味しさがつまった いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

小川町の「小川きのご園」では、「自分の子どもに食べさせられないものはつくらない。生産者であるわたしたち自身が毎日でも食べたいきのこをつくる。」この言葉を大切に徹底した品質・安全管理の下でシタケやエリンギを生産しています。

「ピリ辛青唐エリンギ」は青唐辛子とごま油で中華風に味付けされた一品で、エリンギのコリコリした食感と青唐辛子のピリ辛がやみつきになる人気No.1商品です。「エリンギオリーブオイル漬け」は保存料などを一切使わない、無添加のオリーブオイル漬けです。

石炭化石館ほるるミュージアムショップ(常磐湯本町)で取り扱っているほか、小川キノコ園オンラインショップ(URL:<http://ogawakinoko.shop-pro.jp/>)でも販売しております。こだわりのきのこの味を是非お召し上がりください。



ピリ辛青唐エリンギ  
ピリ辛赤唐エリンギ  
味付け白醤油エリンギ  
味付け甘辛エリンギ

- 販売価格/各520円(税込) ●内容量/300g
- どの味もご飯のお供やお酒のつまみにぴったりです。

エリンギのオリーブオイル漬け

- 販売価格/750円(税込)
- 内容量/200g
- そのまま食べてもよし。パスタやサラダの具材としてもお使い頂けます。

お問い合わせ (有)ユウ 小川きのご園  
福島県いわき市小川町上平字中平7  
TEL.0246-38-5224  
Web:<https://www.ogawakinoko.com/>

所在地は p.9 のマップを参照



## 編集後記

今回特集した JA 福島さくらのトップセールスでは、都内の市場関係者にいわきの青果物を存分に PR できたようです。首都圏の方にも県産・いわき産の農作物を食べてもらうことで風評払拭や更なる販路拡大につながれば嬉しいです。

また、今回表紙タイトル下に掲載したいわき梨も旬を迎えています。いわきの梨は日差しをたっぷり浴びて育つことから「サンシャインいわき梨」と呼ばれ、甘みとみずみずしさが特徴となっています。幸水、豊水、涼豊、新高と旬の時期が続き、10月中旬頃まで味わうことができますので、是非、味や食感の違いを楽しんでみてはいかがでしょうか？

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
(県いわき合同庁舎 3階)  
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196  
U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース